

見守る姿勢の大切さ

私は、小学生の時に接したキャンプリーダーの颯爽とした様子にあこがれ、肢体不自由児協会のきぼっこキャンプのキャンプリーダーに参加しました。さあやるぞ!と意気込んでいった私にとって、自分を変えてくれる人たちにたくさん出会うことができた場です。

一緒にリーダーをした仲間、指導支援してくれるOBやOGからはもちろん、集まってきた子どもたちからもたくさんの贈り物もらいました。

このキャンプは、障害のある子どももそうでない子どもと一緒に共同生活をします。中にはホームシックにかかったり、同年代の

子どもにどう接していいかわからず、プログラムに参加できないというような子が



出てきます。ところが、次第に子ども同士で、「これは楽しいよ!いこうよ。」と障害の有無など関係なく、声をかけ合うようになり、おふろで背中を流し合っていたり、笑いながら車いすを押し合っていたり、肩を組んで話し込んでいたりするのです。

その変わりようは、自然で、子どものパワーを感じさせるものでした。

その間、私は一緒に悩んでいることしかできずにいました。唯一できていたことを仲間と話し合ったときに、気にかけてながら見守っている。普通の活動を全力で一緒に楽しむ。その活動が楽しめるように工夫をする。の3つであることに気付いたのです。この見守る姿勢は、私のアクセセルにもブレーキにもなっている最大の贈り物です。



仙台市立八木山南小学校特別支援学級 教諭

泉 奈津子

Natsuko Izumi

言語障害児教育教員養成課程
平成2年3月 卒業

